平成21年度にっぽん食育推進事業（果物摂取増進対策事業）実施報告
「果物を学ぶ・楽しむ　冬の巻」

果樹試験研究推進協議会会報より転載（2010．４．１　ｐ６－９　）

スタッフの感想

■子どもたちは何ごとにも興味津々。そのような子どもたちに、果物産業が持つ現在最高の持ち駒を集め、全力でぶつかろうと決めた。反応は上々。今回の出前授業で体験したことを何かの折に思い出し、多くの子どもたちが大人になっても果物好きでいてくれることを望みたい（矢野）。

■低学年の小学生への授業では、いろんな美味しい果物を食べることに、大いに興味を持ち、争うようにして食べていたことは驚きであった。果物は美味しいという印象をインプットすることにより、果物好きな子どもたちが増えることを期待したい（家城）。

■子どもたちの果物に対する反応は意外で驚いた。低学年でも果物の名前は勿論のこと、品種さえもスラスラと当たり前のように口を継いで出てくる。そして、試食の果物の登場にはピョンピョン飛び跳ねて体全体で嬉しさを表現する。子どもたちは想像以上に果物が好きで知識も豊富だ。若者の果物離れが叫ばれているが、可能なら、中学生、高校生、大学生を対象とした食育も試みたい（川﨑）。

前回の会報（Vol.15）では、「果物普及啓発協議会」からの委託で、果物摂取増進対策事業「小学生を対象とする出前授業」で果物を食べることの大切さをアピールしたことを、夏バージョン、秋バージョン中心に紹介しましたが、今回はその続きで冬バージョン「果物を学ぶ・楽しむ　冬の巻」について紹介します。

１．授業の内容

１）果物の名前当てクイズ（写真１）

授業の導入部で、和やかな雰囲気や対話の中から児童が果物に対しどの程度の知識を持っているか、また、どのようなことに興味を持つかを探ります。静岡が会場であることから、静岡発の品種であるウンシュウミカンの「青島」、「寿太郎」、キンカンの「こん太」、キウイフルーツの「レインボーレッド」などを準備し、クイズ形式で果物をアピールしました。

写真1．この果物、なーんだ　？

２）「果物普及啓発協議会」事務局作成の副読本（日本のくだもの）を用いての授業

果物の基本的な知識を高めるのに有意義です。

３）当協議会が作成した独自の教材を使う授業

教材（１）「皮ごと食べる、丸ごと食べる」：果物の皮を剥く、包丁で切ることの面倒さが果物消費低迷のひとつの理由に挙げられています。ならばと、皮ごと、丸ごと簡便に食べられる果物を集めました。ブドウ、リンゴは皮ごと食べることで、色素など果肉にはない栄養分を摂ることが出来ることを伝え、キウイフルーツはエチレンで熟させた「レインボーレッド」、「香粋」を準備し、手軽に食べる方法を各

写真2．色、形、香りが楽しいね

自で試みました（P21 サイドメモ・P24、23～26 行参照）。

教材（2）「ミカンの皮を使って学ぶ・工夫する」：ミカンの香りを楽しみながら工夫することで、これまで以上にミカンに親しみを感じてもらうことを目的に、ピールアート（写真２）を紹介しました。

４）美味しい果物の試食

冬が旬の果物を集め、いくつかの品種については静岡発の品種であることをアピールしました。

５）果樹研究所提供のカンキツ果実展示

いろいろなカンキツを展示（写真３）し、触れたり、香りを嗅ぐなどの体験を可能にしました。

６）量販店でイベント

大規模な量販店では、社会貢献活動として消費者参加の各種教養講座を定期的に開催しています。全国にチェーン展開している大型スーパーマーケットと共催で、親子参加の出前授業を企画しました（写真４）。子ども達の果物に喜ぶ姿を見ることで、保護者にも果物の良さをアピールできると考えました。

写真3. 様々なカンキツの隣で授業

写真4. スーパーマッケットの会場にて

７）講師として生産者を招聘

生産現場での経験に基づく授業には果物を作る人ならではの思いがこもり、子ども達には新鮮な感動を与えるに違いないと考えました。

２．授業実施状況

12 月 19 日（土）午前･午後の２回：ジャスコ清水店、12 月 20 日（日）：沼津市千本プラザ、１月 25 日（月）：富士市富士川第一小学校学童保育クラブ。

３．結果・反響

今回の事業では児童に「果物に対する興味とわくわく感」を育むことを目的としました。この目的がどの程度達成出来たかを知るため、アンケート調査を実施しました。以下にアンケート回答事例を紹介します。

１）果物の名前当てクイズ

・果物クイズが面白かった。・ミカンの仲間がカンキツ類ということを知った。・クイズが楽しかった。・寿太郎ウンシュウミカンが静岡で始まったことを知った。

２）「果物普及啓発協議会」事務局作成の副読本を用いての授業

・食事バランスガイドに果物まで入っていることを初めて知った。・ミカンは中国やインドから来たことを知った。・食事のバランスには果物はとても大切。・ミカンに栄養がある。・ミカンは健康にいい。・毎日、ミカンを２個食べるといい。

３）当協議会が作成した独自の教材を使う授業

教材（1）「皮ごと食べる、丸ごと食べる」：

・皮ごと食べられる果物がある。・果物の色の成分が健康に良いことを知った。・皮にも栄養があることが分かった。・果物は皮ごと食べた方がいい。・果物の色の成分が健康に良いことを知った。

教材（2）「ミカンの皮を使って学ぶ・工夫する」

・ミカンのつぶつぶが油ということを生まれて初めて知りました。うれしかったです。ありがとうございます。・ミカンの油胞の話が面白かった。

4）授業との関連を考えて集めた美味しい果物の試食

・小さくて甘いキウイのコンニャクゼリーのような食べ方が面白かった（写真５）。・ミカンが美味しかったので買って食べたい。・くだものがおいしく説明もよく分かった。・とても美味しく、とても勉強になった。・赤いキウイの名前を覚えた。名前をつけた人が来た（講師の一人、川﨑のこと）。・冷凍のぶどうが美味しかった。

写真5. キウイをコンニャクゼリーの要領で試食

5）果樹研究所提供のカンキツ果実展示

・カンキツ類だけでもこんなにも種類があることを知った。・いろいろなカンキツの皮にキズをつけてにおいをかぎ、種類で違いがわかった。・ブラッドオレンジの色はリンゴの色と同じ。

6）講師として生産者を招聘

・みかん農家の大変さが分かった。・袋がけなどミカン作りの知らないことをいっぱい知った。・１年中休みなしに畑に行って大変だと思った。なのに私はそんな事も知らないで嫌いとか言っていてごめんなさい。今度からしっかり食べます。・１年かけてミカンを作ることがすごいと思います。・おいしいミカンを作る工夫が行われていることを知った。

４．出前授業の効果判定

事業としての出前授業では、どれだけの効果（「果物に対する興味とわくわく感」を育む）をあげたかを調べることが重要です。効果判定は以下の二つのいずれかの方法によりましたが、この項については、「冬の巻」だけではなく、「夏の巻」、「秋の巻」についても含めて紹介します。

１）同じ訪問先で２回目の授業を実施

「夏の巻」を実施した２箇所について、２ヶ月後に「秋の巻」を実施し、「夏の巻」での授業がどの程度定着し、効果が得られているかを聞き取り調査しました。その結果、名前当てクイズで見た果物の種類、食べた果物の名前、イチジク生産者による授業内容についてよく覚えていたことが印象に残りました。また、出前授業について帰宅後家庭で話題にした児童が多かったことも好ましい結果でしたが、この点については会場によりかなり差があったことから、出前授業時に、「今日の授業のことをお父さんやお母さんにも話してあげよう」など、念押しをする工夫が必要かと考えます。

２）アンケート葉書による回答

出前授業を行った数日後にアンケート葉書を返信してもらう方法を試みました。これにより、授業当日の経験を思い出させること、家庭内で果物を話題にしてもらえるメリットが得られ、授業が当日だけの経験で終わらず、経験したことの定着度向上に期待が持てると考えます。以下にアンケートによる効果判定結果の概要を示します。

・アンケート葉書に記載されたコメントから本出前授業で果物に対する興味が増したと判断された児童の割合：91.2%

・「出前授業を家庭に帰って話した」ことから判断して本出前授業で果物に対する興味が増したと判断された児童の割合：62.9%

・アンケート結果に記載されたコメントに、果物生産者の授業内容に関連することを記入した

児童の割合：18.5%

どの程度の割合（上記%）で出前授業の効果があったかを判断するかは難しいですが、授業中の児童の反応、雰囲気からの判断も加えると、本出前授業には大きな効果があったと考えます。

5．まとめ

本事業では、児童に果物の美味しさや大切さを知ってもらい、果物に対する関心、興味、「果物に対するわくわく感」が育ってくれることを目標にしました。そのためには、どんな教材、どんな果物が有効であるかを試行錯誤しました。結果的には児童の感想に表現されているように、これまで知らなかった知識に対して素直な反応がありました。ミカンの油胞、ブラッドオレンジの色、夏の薬剤散布の大変さなどについての感動、展示したカンキツ30種あまりの名前を全部書き取った児童がいたことなど、子ども達の感受性の強さは私たちの想像を超えるものでした。このような感性に応えられる素材、教材を提供することが出前授業の効果をより高めることに繋がると考えます。

一方で、児童は既に果物に対する知識がかなり豊富であること、果物が大好きであること、「わくわく感」も既に持っていることを、児童との交流の中で強く感じました。若者が果物を食べない理由として、「皮を剥くのが面倒」、「手が汚れる」などが挙げられますが、今回の出前授業ではその兆候は微塵も感じられませんでした。手をべとべとにしながら夢中でブドウの皮を剥いている児童も多く、皮への反応を心配して、「ナガノパープルは皮ごと食べられるブドウなんだよ」と説明しながら手渡した一粒に、試食した児童は皆喜んでくれました。試食の果物を配り始めると同時に飛び跳ねて喜んでくれた姿、小学生には無理かと思われた90分の授業も集中力を切らすことはありませんでした。

「果物好きの子ども達には、嬉しい授業だったと思います」との感想を寄せてくれた保護者がいました。本来果物好きである子ども達に競合相手のお菓子産業に負けないくらいの情報発信をすることが必要です。情報発信に有用な素材は果物、果物産業の中には有り余るほどあることは、児童の感想のコメントの多様さに現れています。子ども達には果物好きのまま成長して欲しい。そのためには果物産業が本気で食育に取り組むかどうかにかかっているのです。

＊～＊～＊～＊～＊